

萌丘東幼稚園
萌丘東保育園 ほいくだより

2022



ひがしっ子 4月



園長コラム

今年度も新しい仲間を迎え、スタート切れることを職員一同大変うれしく思っております。保護者の皆様のご理解とご協力のもと、こども達の心と体を支えていく所存ですのでどうぞ宜しくお願い致します。

今年はひよこ組の人数が4月の段階から多く、賑やかな中でのスタートとなりました。人数に限らず、この時期はどのクラスも賑やかなもので、泣いている声もよく聞こえます。まだクラスや保育者が自分の居場所になっていないこども達の現状とも言えます。これから慣れ親しみ、我が家のような場所になって欲しいと思います。そんな愛着や信頼が生まれて初めて幼児教育は始まります。

さて、新年度ということで、東園の保育のおさらいをしておこうと思います。活動全体を通して大切にしている事は、自然の中でできるだけ過ごそうということ。もう一つは、自分でやってみようとする主体性を育むための「自立」と「遊び」です。自然の中で心と体の記憶に残る体験を沢山して、小学生になって欲しいと思っています。

人が何かを習得する際に、物事に主体的にかかわることは欠かせません。呼吸すること以外を養育者にゆだねる赤ちゃん時代から、少しずつ身边が自立していき、遊びを通してこの時期に学べる全てを学んでいくのが乳幼児期です。幼児教育においては「遊び」とは、とても広い意味合いを含んだ言葉なのです。

言葉は違いますが、本質的に自立と遊びは同じ心から生まれます。お母さんみたくなりたいたいからスプーンに手を伸ばすのと、年長さんみたくなりたいたいから雲梯を何度も繰り返しているのは、同じ気持ちから生まれています。自立したい、遊びたい、上手になりたい、大人になりたい...。それは人の本能的な欲求であり、それが叶うように支えることが大人の役割であり、東園の保育姿勢でもあります。

0～3歳になる頃までは「保育」というより「育児」と言ったほうが理解しやすいかもしれません。こどもの生活習慣の自立を促しながら、それらをしてくれる大人との密なかかわりをとおして、今後の育ちの基礎となる他者への愛着や信頼する力を獲得していきます。家庭の育児機能を丁寧に園内で再現するようなやり方です。

3～5歳頃になってくると遊びの質が2つに分かれてきます。自分で自由に遊ぶ中で自己肯定感を高める「自己愛を育む遊び」が主であったのが、自分以外の人と身近に遊ぶ中で、相手と自分を意識し「調和する力を育む遊び」が少しずつ見られるようになってきます。丁度アクセルとブレーキのような力になっていき、このバランスは今後こども達にとって欠かせないものになります。

最後のポイントはなんといっても心。どのような心もちで過ごすかが大切です。楽しく遊ぶ。真剣に取り組む。集中してつくる等々。どんな素敵な環境もそこで過ごす人次第だと思っています。そのため、先生も一緒に楽しむ気持ちや叱る時は真剣に叱るなど、こども達と目と目を合わせて保育していくことを大切にしています。そのことでこども達も心動かされ、主体的に行動し、たくましく成長してくれると思っています。

出会いと別れ

年長さんのお別れ会や新入園児の歓迎会。3～4月に掛けては出会いと別れの季節ですね。朝からソワソワしていた年長さん。自分たちでやりきって格好良かったです。これからますます大きくなった姿を見せてくれることでしょう。



今から秋が待ち遠しい

真岡と言えば、桜と菜の花、SLをプッシュしているようですが、東園には全てありますね。SLは流石にミニチュアの遊具ですが、桜と菜の花は毎年綺麗な姿を見せてくれます。今年もジャガイモの植え付けが始まりました。去年は豊作過ぎて、収穫しきれないほどでしたが今年はどうなるでしょうか。自分で収穫したものを厨房に持って行って調理してもらえる東園の食育活動は、こども達にとって素敵な体験になって欲しいと思っています。



新しい生活

慣れ親しんだお家やクラスから生活が変化したこども達。笑ったり泣いたりで大忙しですね。朝は親と離れがたく泣く子もいますが、日中は楽しく遊んでいるものです。写真からもそんな雰囲気が伝われば幸いです。



体いっぱい動かして

暖かい日と寒い日の差が激しいこの時期。天気の良い日には思い切り外で遊んでいる姿が沢山見られました。体いっぱいを使った全身運動がとても大切です。こどもの身体よりずっと大きい遊具やブロックなどを使って遊んでいるのはそのためでもあります。遊びながらこども達はどんどん成長していきます。

